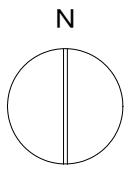


遊具広場  
(防火水槽あり)

喫茶  
(花時計)

KBM. 1  
±0.000m

東山魁夷館  
駐車場



ヒマラヤスギ

No. 2 (d=19m)  
KBM. 1 -0.63m

KBM. 2  
KBM. 1 +4.179m

城山公園

花時計

アカマツ

東山魁夷館

S63No. 2 (d=20m)  
基準点1 +1.080m  
(KBM. 1 +0.37m)

S63No. 1 (d=20m)  
基準点1 +1.809m  
(KBM. 1 +1.10m)

噴水

+3120

±0 設計GL

No. 1 (d=19m)  
KBM. 1 -0.20m

KBM. 3  
KBM. 1 +4.754m

信濃美術館管理棟

+6910

Mbg層上面の等高線

信濃美術館展示棟

信濃美術館  
駐車場

-370

+1360

公衆便所

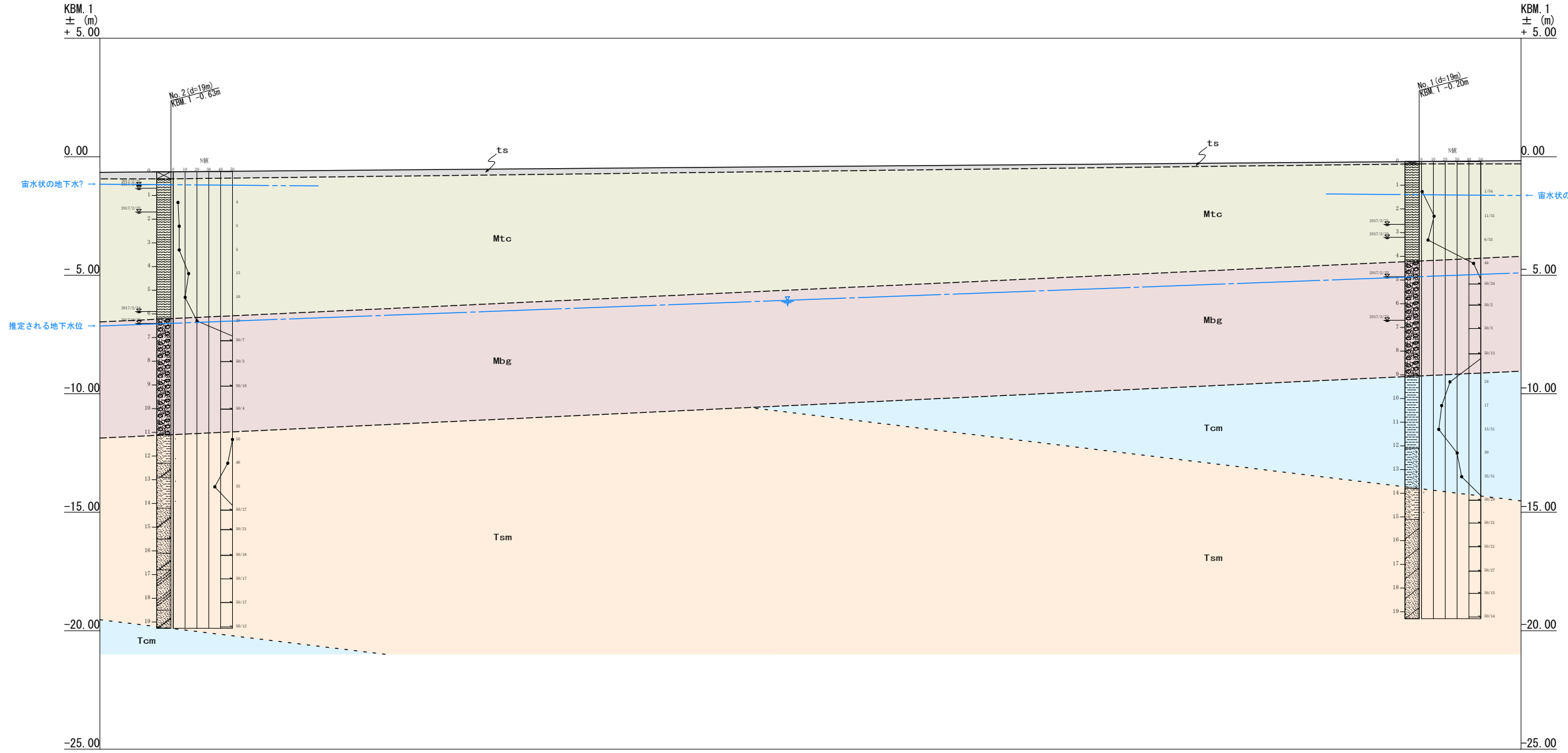
信濃美術館調査位置図 (S=1:500)

+7360

+2990

+1610

No. 2—No. 1 [敷地南北方向] 推定地質断面図 S=1:100 (A1版)  
S=1:200 (A3版)



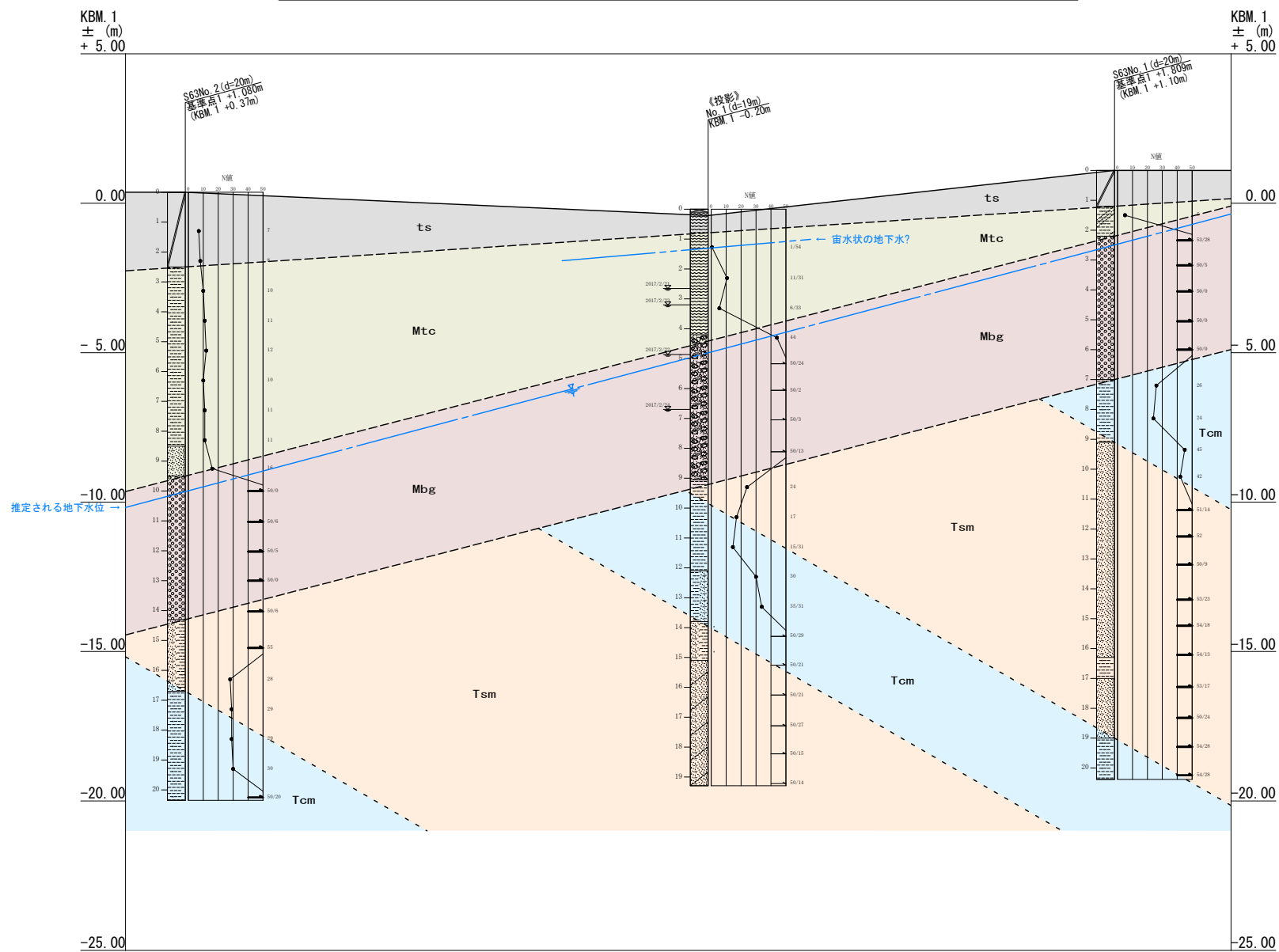
地質凡例

地質区分	記号	設計N値 (実施N値)	層相
表層土	ts	— (7~8)	美術館敷地の表層に分布する埋土(または盛土)。今回の調査地点は砕石を含む礫質土からなり、No. 2ではコンクリートを含む。
南郷層	凝灰質粘性土	Mtc 7 (1/54~16)	凝灰質シルト~シルト質粘土が主体をなす。含水比がやや高く粘性が強い特徴があり、所によってN値1未満の軟弱な部分や砂の薄層を挟むことがある。砂の薄層は試験時に水の浸み出しが観察されており、地下水を賦存していると推定される。
	玉石混じり砂礫	Mbg 50 (53/28~50/2)	φ10~30cmの玉石を頻りに含む礫質土からなる。礫含有率80~90%とかなり礫質であり、所により最大50cmを超える巨礫を含むと予想される。密実な状態である約5mの層厚があり、下位の豊野層も良好な地盤であることから、建築物の支持層として適合する。地質構造は概ね北東の走向をなし、西落ちに約15°で傾斜していると推定される(推定した走向・傾斜はN32°E/14.5°NW)。
豊野層	固結シルト	Tcm 22 (15/31~50/20)	砂とシルトの互層からなる豊野層のうち、シルトが優勢の部分の本層に区分した。ボーリングコアでは、締結をなす傾斜30°前後の葉理構造が観察される特徴がある。固結した状態にあり、建築物の支持層として問題のない地盤である。地質構造は概ね北東の走向をなし、東落ちに30°で傾斜していると推定される(走向・傾斜はN35°E/30°SE)。
	砂	Tsm 45 (28~50/9)	砂とシルトの互層からなる豊野層のうち、砂が優勢の部分の本層に区分した。砂は細砂~中砂が主体をなし、所々にシルトやφ1cm前後の小礫を含む礫混じり砂が挟在する。締まった状態にあり、建築物の支持層として問題のない地盤である。(地質構造はTcmと同様)。

※ N値の分数表示は、分子が打撃回数(回)、分母が貫入量(cm)を表す。  
記号「—」は、N値を測定していない(または設計N値を設定していない)ことを示す。

平成28年度 信濃美術館地盤調査業務			
番号	1/2	推定地質断面図	縮尺 図示
長野市箱清水			
所長	課長	調査	設計
長野県建設部施設課			
設計会社		管理技術者	
測量会社		調査技術者	
調査会社	綜合地質 コンサルト(株)	主任技術者	桜井 千寛

S63No. 2—S63No. 1 [敷地東西方向] 推定地質断面図 S=1:100 (A1版)  
S=1:200 (A3版)



地質凡例

地質区分	記号	設計N値 (実施N値)	層相
表層土	ts	— (7~8)	美術館敷地の表層に分布する埋土(または盛土)。今回の調査地点は砕石を含む礫質土からなり、No. 2ではコンクリートを含む。
南郷層	凝灰質粘性土	Mtc 7 (1/54~16)	凝灰質シルト~シルト質粘土が主体をなす。含水比がやや高く粘性が強い特徴があり、所によってN値1未満の軟弱な部分や砂の薄層を挟むことがある。砂の薄層は試験時に水の浸み出しが観察されており、地下水を賦存していると推定される。
	玉石混じり砂礫	Mbg 50 (53/28~50/2)	φ10~30cmの玉石を頻りに含む礫質土からなる。礫含有率80~90%とかなり礫質であり、所により最大50cmを超える巨礫を含むと予想される。密実な状態で約5mの層厚があり、下位の豊野層も良好な地盤であることから、建築物の支持層として適合する。地質構造は概ね北東の走向をなし、西落ちに約15°で傾斜していると推定される(推定した走向・傾斜はN32°E/14.5°NW)。
豊野層	固結シルト	Tcm 22 (15/31~50/20)	砂とシルトの互層からなる豊野層のうち、シルトが優勢の部分を本層に区分した。ボーリングコアでは、塊状をなす傾斜30°前後の葉理構造が観察される特徴がある。固結した状態にあり、建築物の支持層として問題のない地盤である。地質構造は概ね北東の走向をなし、東落ちに30°で傾斜していると推定される(走向・傾斜はN35°E/30°SE)。
	砂	Tsm 45 (28~50/9)	砂とシルトの互層からなる豊野層のうち、砂が優勢の部分を本層に区分した。砂は細砂~中砂が主体をなし、所々にシルトやφ1cm前後の小礫を含む礫混じり砂が挟在する。締まった状態にあり、建築物の支持層として問題のない地盤である。(地質構造はTcmと同様)

※ N値の分数表示は、分子が打撃回数(回)、分母が貫入量(cm)を表す。  
記号「—」は、N値を測定していない(または設計N値を設定していない)ことを示す。

平成28年度 信濃美術館地盤調査業務			
番号	2/2	推定地質断面図	縮尺 図示
長野市箱清水			
所長	課長	調査	設計
長野県建設部施設課			
設計会社		管理技術者	
測量会社		照査技術者	
調査会社	綜合地質 コンサルト(株)	主任技術者	桜井 千寛



